がん診療の未来を支えるサポーティブケア



Alexandre Chan 教授

MASCC理事長
(MASCC: Multinational Society of Supportive Care in Cancer)

MASCCの理事長であるAlexandre Chan教授をお迎えして
順天堂大学での特別講演を企画しました。
すべての腫瘍関連部署の医療者の皆様及び学生・留学生・院生の皆様の
ご参加をお待ちしております。

ハイブリッド企画
オンサイト+ライブWEBストリーム

参加お申込はこちら
https://forms.gle/wVH1xmwVynMckm7V6

24
2026年11月
火曜日

時間
17:30–19:00

会場
順天堂大学
A棟、1階　ｶﾝﾌｧﾚﾝｽﾙｰﾑ

AGENDA

01 開会の辞
齊藤光江

02 ご挨拶
服部信孝教授(学長補佐)
加藤俊介教授(がん治療センター長)

03 基調講演
Alexandre Chan 教授

世話人　齊藤光江　(乳腺腫瘍学講座特任教授・MASCC理事)

共催　次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
ISPACOS (International Society of Patient-Centered Oncology Science)
順天堂研究ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ事業

後援　順天堂大学順天堂医院　がん治療センター　乳腺センター
順天堂大学大学院医学研究科

お問合せ先　順天堂大学医学部乳腺腫瘍学講座　(代)03-3813-3111　内線5855



大学院HP（公開講座・セミナー・シンポジウム）

Alexandre Chan 教授の経歴

アレクサンダー・チャン教授は、2026年にシンガポール国立がんセンター(NCCS)のがんサバイバーシップ・ウェルネス部門の所長として赴任しました。彼はアメリカのカリフォルニア大学アーバイン大学薬学部の臨床薬学教授であり、2020年から2026年までUCアーバインの臨床薬学実践学科の創設学科長を務めました。チャン教授は以前、2006年から2019年までシンガポール国立大学(NUS)の終身在職教授を務めていました。

腫瘍薬学の認定専門家であるチャン教授は、トップクラスの医学・がんジャーナルに査読付き論文>350本(h指数:59)を発表し、彼の研究プログラムは米国のNIH、シンガポールのNMRC、財団、製薬会社など複数の政府機関から1,000万米ドルの競争的資金援助>を獲得しています。チャン教授のトランスレーショナルおよびヘルスサービス研究は、抗がん薬毒性の管理、ケアモデルと経路の最適化、がん関連症状管理のための革新的なモダリティの確立に焦点を当てています。

チャン教授は現在、がん支持療法の世界的リーダー組織である MASCCの理事長を務めています。また、ASCO、ESMO、ISOPP、MASCCなどの組織を通じて、腫瘍学における多数の臨床実践ガイドラインの策定にも貢献しています。